

Japan Water Agency
水機構 ニュース

NEWS

利根川
水系

●沼田総合管理所（群馬県）
奈良俣ダムでダム再生事業に着手！

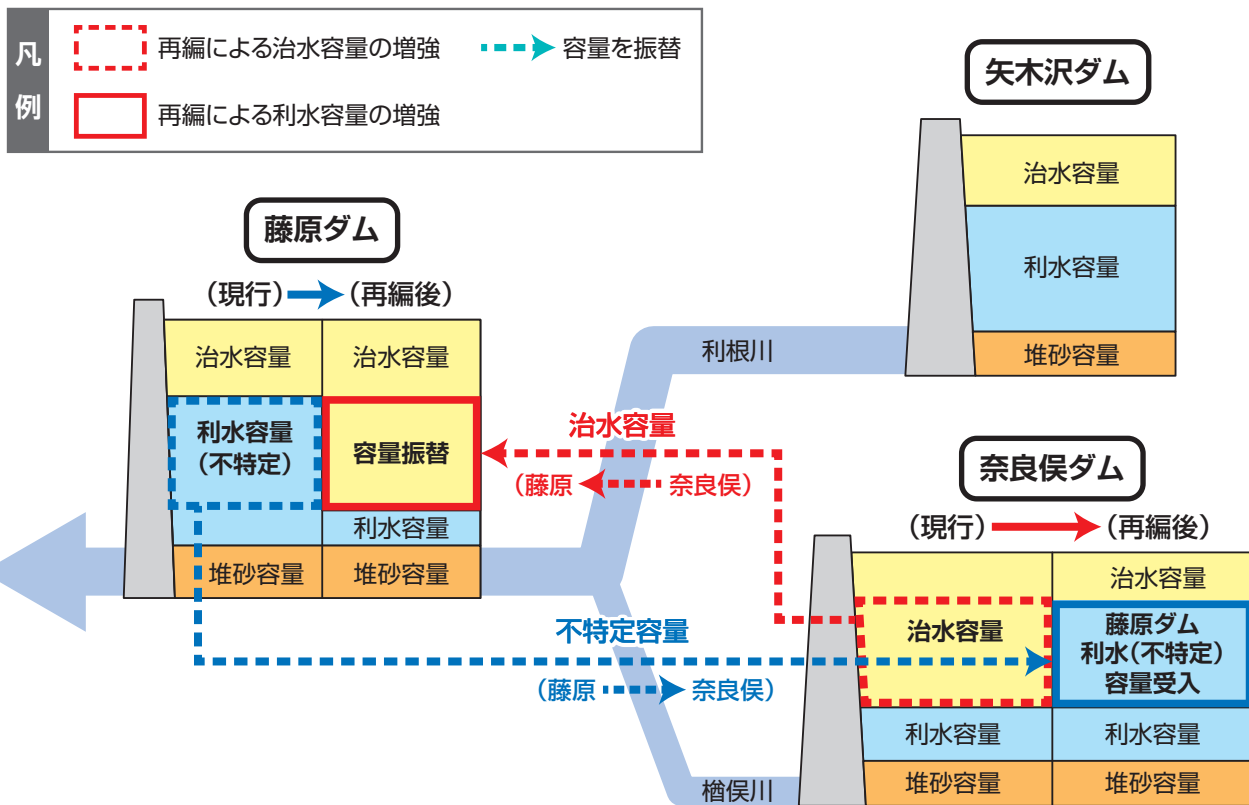
水資源機構は、国土交通大臣から、令和2年3月16日に「藤原・奈良俣再編ダム再生事業（奈良俣ダム関係）に関する事業実施計画」の認可、同年4月1日に事業承継を受け、同日付けで沼田総合管理所に「奈良俣ダム再生事業推進室」を設置し、奈良俣ダムの再生事業に着手しました。予定工期は令和2年度から4年度までの3カ年です。



奈良俣ダム

本事業は、「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（平成29年9月変更）」に位置づけられ、既存施設の治水機能増強を目的として、貯水規模を増加させることなく、奈良俣ダムの洪水調節容量と藤原ダムの利水容量それぞれ239万 m^3 の容量振替を行うものです。この容量振替に伴い、奈良俣ダムでは、洪水放流設備改築を行います。

※奈良俣ダムは、平成3年より水資源機構が管理するダムで、利根川の治水と群馬県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都の利水を目的に建設された多目的ダムです。



藤原ダム・奈良俣ダムの再編のイメージ

淀川
水系

●川上ダム建設所（三重県）
川上ダム堤体コンクリート打設10万立方メートル達成！！

令和2年2月4日に川上ダムの堤体コンクリート打設量が10万立方メートルに達しました。この日は、ダム工事関係者が打設現場に集まり、万歳三唱でお祝いしました。

令和元年9月20日に堤体コンクリートの打設を開始して以降、4ヶ月ほどでの達成です。ダムも少しずつですが大きくなり、高さも20mを超え、ダム工事現場展望台“観眺台”からみるとダムの形も少し分かるようになってきました。

今後もコンクリート打設を重ね、来年の春には堤体積45万立方メートル、高さ84mのダムの姿をご覧いただけます。現在の工事では、上下流方向の約50m、幅15mを1ブロックとして、高さ1.5mずつ打設しています。1ブロックで約1,000立方メートル以上のコンクリート打設を行っており、これは、25mプール2杯分に相当します。場所にもよりますが、1ブロックの打設は20時間かかるところもあります。1ブロックの打設が完了すれば、打設準備の完了している次のブロックの打設に取り掛かります。こうした打設作業を日曜日を除いて毎日昼夜連続して行っています。

ダム完成に向けてこれからも安全第一に施工を進めてまいりますので、地域の皆さまには今年度も引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



10万立方メートルを記念して万歳三唱



ダム工事関係者で記念撮影

ミス日本「水の天使」が水資源機構を表敬訪問されました！

2020ミス日本コンテストのファイナリストで、「水の天使」の栄冠に輝いた中村真優さんが、令和2年2月18日、水資源機構本社を訪れ、金尾理事長と日置副理事長を表敬され、水の天使就任の抱負などをお話しされました。

中村さんは、高校生の時にドイツへ留学されており、そこで難民支援のNPO活動に従事した経験から、現在は、自らNPO団体を立ち上げ、子どもの教育支援活動を行っているとのこと、大変行動力がある活動家でもあります。今後、日本全国で開催される水に関するイベントを通じ、水の広報官として、人々の水への意識を高めてくれることでしょう。



利根川 水系

●利根導水総合事業所

進藤総務大臣政務官が利根大堰等を視察されました

令和2年2月26日、総務省の進藤^{しんどうがねひこ}金日子大臣政務官及び担当官が、利根大堰を初めとする利根導水施設を視察されるとともに、水資源機構本社にて役員と意見交換を行いました。

東京オリンピック・パラリンピックに向け、水需要の増大や極端な雪不足に起因する水不足が懸念される中、総務省は独立行政法人制度の所管官庁であるため、今般、首都圏の水供給における主要施設である利根導水施設を視察されることとなったものです。

進藤大臣政務官は、利根大堰、見沼代用水路等を現地視察され、機構が行っている施設管理の状況について説明を受けられました。また、機構役員との意見交換では、機構は技術者集団としてしっかり対応されているので、引き続き技術の継承や活用を進めてほしいとの助言をいただきました。

機構としては、進藤大臣政務官のご助言を踏まえつつ、引き続き、首都圏の水を支える施設群を適切に管理するとともに、首都圏直下地震に備えるべく平成26年度から着手している「利根導水路大規模地震対策事業」の着実な推進に努めていく所存です。



利根大堰視察の様子



機構役員との意見交換の様子

新規採用職員入社～新しい仲間が増えました～

今年度は50人(うち女性14人)の新規採用職員が入社し、職場にフレッシュな仲間が増えました。

例年、入社式は水資源機構本社で行っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため、本社での入社式を中止し、職員はそれぞれ配属先に直接着任し、各配属先で辞令交付を受けました。



辞令交付(木曾川用水総合管理所)

また、入社後の研修については、後日、Web方式により理事長からの講話を聴講後、引き続き研修の一部を本社からWebで配信したほか、各事務所で個別に実施するなど、例年とは異なった対応となりましたが、例年同様、緊張した面持ちで研修に臨んでいました。

それぞれの配属先での業務を通じ、徐々にではありますが社会に貢献する人材として成長して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



着任挨拶(利根導水総合事業所)